



胎児診断から小児医療へ

神奈川県立こども医療センター

病院長 石川浩史

神奈川県立こども医療センター病院長の石川浩史と申します。私は産婦人科医として長く周産期医療に携わり、2025年9月より病院長を務めています。

当センターの産婦人科は、近年「胎児診療・産婦人科」という名称に変わりました。もともと当センターでは胎児診療に力を入れており、先天疾患のある胎児を診断し、出生後の小児医療へ円滑につなげる役割を担ってきました。診療内容の実態に合わせた名称変更です。

背景には超音波診断装置の進歩があります。以前は高度な技術を要した胎児心臓や消化管の観察も、現在ではより正確に行えるようになりました。その結果、多くの先天疾患が胎児期に疑われ、専門施設で詳しい検査を受ける時代になっています。

しかし、診断を受けたご家族の衝撃は非常に大きなものです。多くのご両親が、「頭が真っ白になり、説明を覚えていない」と振り返られます。当センターでは、産婦人科医だけでなく、出生後の治療を担当する小児科医や看護師も一緒に説明を行っています。説明内容をすべて覚えられなくても、「多くの医療者が一緒に支えてくれる」という安心感だけでも持ち帰っていただきたいと願っているからです。

胎児診断の医学的な有効性については、まだ十分なエビデンスが確立されているわけではありません。それでも、出生前から病気について理解を深め、医療者と繰り返し話し合いながら出産を迎えることには、お子さんやご家族にとって大きな意味があると感じています。

そのためには、胎児診断から出生後の小児医療までが切れ目なくつながっていることが重要です。小児医療に携わる医療従事者の皆さま、そして地域で子どもたちを支えてくださる多くの方々にも、ぜひ力をお貸しいただければ幸いです。

